

# 海徳海山の海底地形調査\*

## Bathymetric Survey at Kaitoku Sea Mount

海上保安庁水路部

Hydrographic Department, Maritime Safety Agency

水路部が、平成4年7月に測量船「昭洋」及び自航式ブイにより実施した海徳海山の海底地形調査結果について報告する。

海徳海山は、比高約2,700mの海底火山であり、東海徳場と西海徳場の2つの峰にわかれる。今回は昭和59年に噴火のあった東海徳場を中心に調査を実施した。東海徳場の山体東側斜面は緩傾斜をなし、頂上付近(水深約400m)は、径約3kmの広範囲に渡り平坦な地形を形成している。この北側に水深95mの最浅所があった。頂上付近から水深約600mの尾根が西側に伸びており、その先の西海徳場につながっている。また、尾根の北側には谷地形がみられた(第1図)。

なお、参考として海徳海山の火山活動記録を示す<sup>1)</sup>。

1543年(天文12年) 海底噴火

1984年(昭和59年) 海底噴火:海水変色(幅約10km,長さ約50km以上),海面の盛り上がり,噴煙,軽石等の噴出。

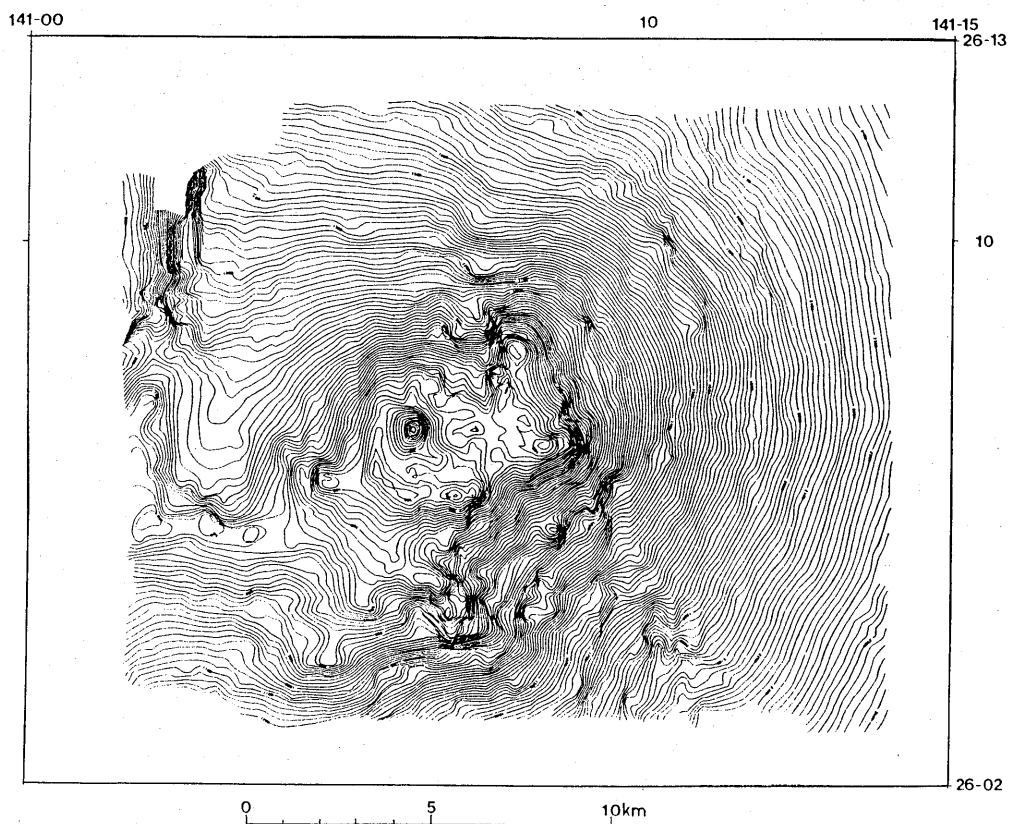
1985年(昭和60年)~1993年12月(平成5年)まで年数回航空機で観測しているが海水変色を認めていない。

### 参 考 文 献

1) 気象庁(1991):海徳海山,日本活火山総覧(第2版),310.

---

\* Received 14 Apr., 1994



第 1 図 海徳海山の海底地形図

Fig. 1 Bathymetric Chart at Kaitoku Sea Mount